

「科学コミュニケーション」

「科学コミュニケーション」とは、科学者が科学を巡る様々な問題について科学者と市民が対話を行うことです。現代社会は、科学だけでは解決できない複雑な問題にあふれています。そんな今だからこそ、科学者が科学の世界だけに閉じこもることなく、市民と対話しながら協力を深め、新たな価値ある社会を創造することが重要です。今回のフォーラムでは、その必要性和状況について学ぶ研修会を設けました。

また、平成27年度新たに発足した愛媛大学リサーチユニットの取組と展望の講演や、学術基盤の充実を目指す研究活性化事業の支援を受けた課題等の成果報告を行います。

◆平成28年3月18日（金）13:30～17:45

◆愛媛大学南加記念ホール

プログラム

「特別研修」と「研究活性化事業成果報告」（拠点形成支援）は、テニユア・トラック教員能力開発プログラム（PD）の研究能力開発プログラム（RD）に該当します。

【開会挨拶】愛媛大学理事（学術・環境担当） 宇野 英満 13:30～13:35

【特別研修】「科学コミュニケーションの必要性」 13:35～14:35

～科学と社会の関係深化による共創的科学技术イノベーションに向けて～

科学技术振興機構 科学コミュニケーションセンター 事務局長 柴田 孝博

【休憩】 14:35～14:50

【研究活性化事業成果報告】（拠点形成支援） 14:50～15:50

「愛大物性研究の知と技の拠点形成－3年間のまとめと今後の展望」 理工学研究科（理）教授 内藤 俊雄

「RNAの拠点形成 その3年間」 理工学研究科（工）教授 堀 弘幸

「プラズマ遺伝子/分子導入技術の拠点形成－3年間のまとめと今後の展望」 理工学研究科（工）教授 神野 雅文

【休憩】 15:50～16:05

【一般講演】「愛媛大学リサーチユニット制度について」 16:05～17:00

「制度の趣旨について」 学術企画室長 武岡 英隆

「炭素繊維複合材料研究ユニットの活動状況と将来展望」 理工学研究科（工）教授 黄木 景二

「高圧科学の材料科学への展開」 理工学研究科（工）講師 松下 正史

「完全並列計算アルゴリズム応用研究ユニットの概要と展望」 理工学研究科（工）講師 中原 啓貴

【研究活性化事業成果報告】（萌芽・発展共同）（1人につき3分のフラッシュ発表） 17:00～17:40

法文学部 准教授 淡野 寧彦 理工学研究科（理） 教授 松浦 真也

医学系研究科 教授 北澤 莊平 医学系研究科 准教授 矢野 元

医学系研究科 助教 大嶋 佑介 医学系研究科 助教 原口 竜摩

附属病院 助教 山本 安則 南予水産研究センター 准教授 高木 基裕

プロテオサイエンスセンター教授 今井 祐記 プロテオサイエンスセンター講師 武森 信暁

【閉会挨拶】学術企画室長 武岡 英隆 17:40～17:45